

アンソロジー・ プロレタリア 文学

糊沢健

編

(文芸評論家・早稲田大学等非常勤講師)

全7巻

●1920年代～30年代にかけて勃興・流行し、その後顧みられることの少なかったプロレタリア文学の作品を、テーマ別で全7巻にまとめ、年2点程度のペースで刊行する。

●短篇～中篇小説を各巻10本程度収録。匿名の投稿小説や「壁小説」など、プロレタリア文学特有の形態をもつ作品も収める。

●川柳・短歌・俳句・詩など、アンソロジーでないと再録の難しいジャンルの作品も積極的に掲載した。

●本文は1段組、新字・新仮名遣いに統一、ルビも多めにふり、読みやすさを重視した。

●各巻の巻末には編者による解説・解題を掲載。文学史的な観点だけでなく、現代においてプロレタリア文学を読むことの意義を訴える。



全7巻／四六判上製
予頁各368～400頁
各巻2800円程度

第1回配本

① 貧困 飢える人びと

渡辺順三 (短歌)

I

小林多喜二「龍介と乞食」／宮地嘉六「ある職工の手記」

林芙美子「風琴と魚の町」／鶴彬 (川柳)

II

黒島伝治「電報」／伊藤永之介「濁り酒」／宮本百合子「貧しき人々の群れ」

栗林一石路・橋本夢道・横山林二 (俳句)

III

若杉鳥子「棄てる金」／里村欣三「佐渡の唄」／葉山嘉樹「移動する村落」

2013年
9月より
刊行スタート

プロレタリア文学は
「地獄」を明視する、
「地獄」の文学である。

労働者の文学、階級の文学という定義では足りない。社会主義の文学、共産主義の文学という言い方では足りない、反戦の文学、革命の文学でも足りない、運動の文学、集団の文学でも足りない。

各巻ラインナップ

*巻数順の刊行を予定しております。

*収録作品は予定のため、変更される可能性があります。

プロレタリア文学から浮かび上がってくるテーマを7つのテーマに整理した。見慣れたプロレタリア文学を見慣れないものとして再発見し、つかみ直すために、現代の要請と課題にしたがって編集を試みた。——編者

蜂起

集団のエネルギー

2

鶴彬（川柳）

新井夜雨（俳句）

里井柳枝（短歌）

山中桃子「製糸女工の唄」（詩）

佐多稲子「女店員とストライキ」

小林多喜二「飴玉闘争」

葉山嘉樹「海に生きる人々」

里村欣三「凶作地帯レポート」

金子洋文「地獄」

ほか

戦争

逆らう皇軍兵士

3

鶴彬（川柳）

栗林一石路（俳句）

宮木喜久雄「勲章」（詩）

黒島伝治「櫓」

中村光夫「鉄兜」

中野重治「軍人と文学」

新井紀一「怒れる高村軍曹」

小川未明「野薔薇」

平沢計七「二人の中尉」

ほか

事件

闇に葬られた話

4

鶴彬（川柳）

黒島伝治「武装せる市街」

壺井繁治「十五円五十銭」

平林たい子「森の中」

小林多喜二「一九二八年三月十五日」

伊藤永之介「万宝山」

越中谷利一「一兵卒の震災手記」

秋田雨雀「骸骨の舞跳」

ほか

驚異

出会いと偶然

5

鶴彬（川柳）

橋本夢道（俳句）

萩原恭次郎「日比谷」（詩）

葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」「淫売婦」

中野重治「交番前」

小林多喜二「蟹工船」

小川未明「空中の芸当」

藤沢桓夫「琉球の武器」

島公靖「青いユニフォーム」

壁小説

ほか

教育

学校の発見

6

鶴彬（川柳）

小鹿富美子「或る女教員はかく歌う」（詩）

中野重治「教師について」

佐多稲子「『学歴なし』の履歴書」

水守亀之助「万歳」

小林多喜二「老いた体操教師」

江口渙「顔」

本庄陸男「白い壁」

壁小説

ほか

哄笑

諷刺とユーモア

7

鶴彬（川柳）

壺井繁治「頭の中の兵士」（詩）

宮地嘉六「放浪者富蔵」

藤沢桓夫「日曜日」

林房雄「新しいそっぽ物語」

江口渙「馬車屋と軍人」

平林たい子「古戸棚」

久保栄「生きた新聞 ファッション人形」

島公靖「プロ床（移動演芸団用喜劇）」

ほか